



釧路と聞いて何をイメージされますか。

霧、サンマ、タンチョウ、映画「晩夏」・・・いろいろあると思います。当センターの名称になっている釧路湿原と答える人も多いのではないのでしょうか。

当センターの名称は。いかにも、釧路湿原をフィールドに活動している感じがします・・・。そのためでしょうか。

当センターには、釧路湿原に関する問い合わせがあるのですが・・・。

広大な、釧路湿原と釧路湿原国立公園ですが、この広い区域に国有林は存在しません。

つまり、釧路湿原には、当センターが活動する場所がないのです。

では、どこで活動しているのでしょうか。

釧路湿原森林ふれあい推進センターは、釧路市内に事務所を構え、国有林をフィールドに、北海道の多様な自然との共生に向けた自然再生活動に

取り組むNPO等の活動支援、森林環境教育等に携わる教育関係者の支援・技術指導等を行っています。

なかでも釧路湿原上流部の森林の自然再生と森林環境教育が主たる活動になっています。

釧路湿原では、過去の開発や森林伐採などによる土砂や栄養分の流入による湿原の乾燥化や周縁部の生態系の劣化がおきています。

この環境悪化を食い止めるため、平成15年に自然再生法に基づき釧路湿原自然再生協議会が設立されました。

当センターは同協議会に所属し、釧路湿原東部にあるシラルト口湖の上流部の雷別地区国有林で、気象害にあい笹原となつてしまった箇所を広葉樹の森林に再生する自然再生に取り組んでいます。また、森づくりのボランティア活動グループ「雷別(らいべつ)ドン

リ倶楽部」を立ち上げ、植樹、下草刈り等の保育作業を行い、市民のみなさんに、自然再生に参加してもらっています。



雷別ドングリ倶楽部の活動

森林環境教育では、平成18年度から継続して行っている標茶町立中茶安別(なかつちあんべつ)小中学校の学校林活動への協力や釧路市こども遊学館、釧路市及び周辺のイベントに参加して、森林に行く機会の少ない子ども達に、木とふれあう機会を提供するとともに、木工工作等で木の持つ独特の温もり、肌触り、色、音、匂いを体感してもらい、木の良さをPRに努めて

います。樹木は生長するのに長い時間を要しますが、当センターの活動も樹木と同様に、じわじわと地域に浸透してきており、地域のみなさんから、「ふれあいセンターさん」と呼ばれ親しまれています。



中茶安別小中学校の学校林活動

なお、当センターでは、ホームページで、広報紙「飛鶴(ひかく)の森林(もり)から」の掲載や管内の自然情報の収集や情報提供を行っています。随時更新しておりますので是非ご覧下さい。